事案名	いわき市の事案 (福島県7-1)
分類	生産・保有
	廃棄・遺棄
	その他
	現在の状況
資料	・『相模海軍工廠』昭和59年〔1〕
	・「化学戦資材ノ件回答」昭和21年3月9日〔2〕
	・「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分に関する報告」昭和24
	年12月28日〔3〕
	• Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume
	・「毒瓦斯及其ノ充塡兵器処理二関スル件」昭和20年9月〔5〕
	・「現在品目録」(昭和20年8月25日)「高座、相模海軍工廠
	引渡目録」所収〔6〕  ・「日本海軍二於ケル化兵戦関係概況」(日付なし)〔7〕
	・「千葉県における漁業補償」昭和45年3月〔8〕
	・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果につ
	いて(送付)」平成15年8月29日〔9〕
 資料内容概要	福島県(現いわき市)には、相模海軍工廠錦分廠が存在し、終
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	戦時に催涙ガスを35tから39t位を保有していたとの記載
	が資料から確認される。これは米軍によって海洋投棄されたとの
	ことだが、具体的な海域は資料には記載されていない。
	生産・保有情報
	・昭和19年に、相模海軍工廠は福島県岩城郡錦町(現いわき
	市)の民間工場の一部を徴用して「第1火工部の疎開工場と
	し、併せて128研究の拠点とした」と記載されている〔1〕。
	・昭和20年8月1日に、相模海軍工廠錦分廠には、塩化アセ
	トフェノン35トンが存在していた〔2〕。
	・終戦時に、相模海軍工廠錦分廠には、塩化アセトフェノン3
	5.5トンが存在していた〔3〕〔4〕。
	・昭和20年9月9日現在で、相模海軍工廠錦分廠には、催涙
	ガス35.5(39.5が35.5と修正されている)トン
	が存在していた〔5〕。
	・昭和20年8月25日に、相模海軍工廠錦分廠には、1号特
	薬36.5トン(相模海軍工廠分で錦分を含む)が存在して
	いた〔6〕。   ・昭和20年9月9日現在で、相模海軍工廠錦分廠には、催淚
	・昭和20年9月9日現住で、相撲海里工廠・一方人は、催伏 ガス39トンが存在していた〔1〕〔7〕。
	廃棄・遺棄情報
L	

・「相模海軍工廠、同廠化学実験部及び錦分工場にあった各種ガスは1946年2月11日前後に於て米軍の監督指揮により海中に投棄処分された」としているが、投棄場所に関しては記載がない〔3〕。

## その他情報

・錦分廠とは記されていないが、銚子沖に海洋投棄された旧軍 兵器・弾薬や毒ガス弾等について、「銚子沖に処分する弾薬 は、福島県、長野県および静岡方面から貨車輸送されたもの」 であるとしている〔8〕。

## 現在の状況

・錦分廠跡地は、現在、民間企業の敷地である〔9〕。